四国八十八箇所お遍路報告書（満願成就・結願・完歩）

写真・文　後藤隆徳

年月日　　２０１４年月１１月０７日（金）～１１日（火）

回　数　　第九回・四国お遍路（通算歩行日数＝４５日～４７日）

参加者　　後藤隆徳、高岡八千代、土屋弥生、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、田内保子、陶山泰信（ランニング）＝９名＋１名

遍路寺

●八十五番札所　八栗寺（やくりじ）　　香川県高松市牟礼町牟礼３４１６

ご本尊＝聖観世音菩薩　　おん あろりきゃ そわか

メモ＝五剣山の名は五つの峰が剣の尖のように聳え立っていることから付けられたが、元禄１１年（１６９８）の豪雨で西の峰が半分に割れ、宝永３年（１７０６）の地震で東の峰が崩れ、現在は４峰になっている。山の中腹の寺までケーブルがある。

仁王門を入ると正面が本堂で、弘法大師作といわれる本尊聖観世音が安置されている。寺は天長６年（８２９）の創建で、当初は千手観世音の小像を安置し、千手院と称していた。

弘法大師は幼少の頃から、この山に登り、土で仏像などを作られたが、後に求聞持の法を修されているとき、五柄の利剣が虚空より降ってきたので、五剣山と名づけ、山項からは８ヵ国が見えるので八国寺とし、大師が入唐前に植えた８個の焼き栗が、帰国後こと如く、生長繁茂していたので八栗寺に改めたという。

本堂左手前の聖天堂には弘法大師作の歓喜天が祭られ、商売繁昌を願う信者で賑わっている。白御影石で知られる庵治の町が山麓にある。

●八十六番札所　志度寺（しどじ）　香川県さぬき市志度１１０２

ご本尊＝十一面観世音菩薩　　おん　まか　きゃろにきゃ　そわか

メモ＝仁王門を入ると左に海女の墓がある。謡曲「海士」で知られる伝説によれば、天智天皇のころ、藤原不比等が亡父鎌足の供養に奈良興福寺の建立を発願した。唐の高宗皇帝の妃であった妹はその菩提にと３つの宝珠を船で送ったが、志度の浦で龍神に奪われた。兄の不比等は諦め切れず、姿を変えて志度の浦へ渡り、土地の海女と夫婦になり一子・房前をもうける。

やがて海女は観世音に祈願し、夫とわが子のために命を捨てて龍神から宝珠を取り返す。不比等は海辺の近くに海女の墓と小堂をたて「死度道場」と名付けた。後に房前は母の追善供養に堂宇を増築し、寺の名を志度寺と改めるのである。寺伝によれば推古天皇の３３年に志度の浦に楠の霊木が漂着し、園子尼がこの霊木で観世音の尊像を刻みたいと念じたのがその始まりという。現在の本堂・仁王門は寛文１０年（１６７０）の建立。

五重塔は昭和５０年、大阪に出て成功した当地出身の竹部二郎氏の建立。

●八十七番札所　長尾寺（ながおじ）　香川県さぬき市長尾西 653 番地

ご本尊＝聖観世音菩薩　おん　あろりきゃ　そわか
メモ＝志度をあとに約７㌔の道をたどると長尾の古い町並になる。寺は町中にあり、弘安６年と９年の銘のある石の経幢を拝みながら仁王門を入ると、広い境内に本堂、右に大師堂、左に護摩堂と常行堂が建ち並ぶ。天平１０年（７３８）行基菩薩が巡錫の折、道端にある楊柳をもって聖観世音を刻み、小堂を建てて尊像を安置したのが寺の始まりという。弘法大師は、入唐するに当たりご本尊に祈願し、護摩修法された。
この時、人々に護摩符を授け、それ以来「大会陽福奪い」の行事が今日まで続いている。大師は唐より帰朝してから大日経を一字一石に書写して、入唐の大願を成就したことを謝し、万霊の供養塔をたてて修法された。
この供養塔は現在護摩堂の前にある。後に天長２年（８２５）には伽藍が整備され、永仁６年（１２９８）伏見天皇の勅により開扉法要が営まれ、天和元年（１６８１）真言宗から天台宗に改めている。住職の説法は人気がある。

●八十八番札所　大窪寺（おおくぼじ）　香川県さぬき市多和兼割９６
ご本尊＝薬師如来　おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか
メモ＝結願への最後の１８㌔の山路をたどる。長い遍路の旅もここが終着・結願の寺である。「お大師さんのおかげで巡拝できた」その喜びは計り知れない。寺伝によれば元正天皇のころ、行基菩薩がこの地に留錫し、弘法大師が唐から帰国してより、現在の奥ノ院の岩窟で求聞持の法を修し、大きな窪の傍らに堂宇を建立して自刻の薬師如来を安置した。
これが大窪寺のはじまりで、後に女人高野ともいわれ、参拝者で賑わったという。そそり立つ胎蔵ヶ峰を背景に本堂があり、礼堂・中殿・奥殿（二重多宝塔）からなり、ご本尊の薬師如来は奥殿に安置されている。薬壺の代わりに法螺貝をもった尊容をされ、この法螺貝ですべての厄難諸病を吹き払うと言われる。強い信仰の支えがあってこそ巡拝中にお陰を受けたのである。打ち終えた遍路は大師堂で感謝の勤行をすませ、決まり事ではないが、杖・菅笠を納めてゆく人がいる。

●一番札所　霊山寺（りょうぜんじ）　徳島県鳴門市大麻町板東霊山寺１２６
ご本尊＝釈迦如来　のうまく　さんまんだ　ぼだなん　ばく
メモ＝鳴門から西へ１０㌔程の所に、坂東という小さな町があり、町外れに霊山寺がある。仁王門を入ると、左に鐘楼、多宝塔、正面に本堂、右に紀州接待所、大師堂、本坊がある。天正年間の兵火と明治２４年の災火に遇っているが、その後、建物は再建され、一番に相応しい伽藍。
縁起によれば、聖武天皇の勅願により、天平のころ行基菩薩が開基。弘仁６年（８１５）弘法大師が２１日ほど留まって修法され、この間に、霊感を得て釈迦如来を刻み、印度（天竺）の霊山を日本（和国）に移される意味から竺和山霊山寺と号し、第１番の霊場にしたと伝える。遍路は、巡拝

に当たって、心構えをお大師さまに約束（十善戒）する。いわゆる授戒を受けるのが本来だが、時間に余裕がなければ、本堂内右手の納経所でご住職から巡拝についての指示を受けるとよい。また、必要な遍路用具も全て整っている。

第１日目　１１月０７日（金・晴）　通算歩行日数＝４５日　　歩行距離＝約１０Ｋｍ
清水町４：００－瀬戸大橋－高松中央ＩＣ－淡路ハイウェイ・オアシス１０：５０－前回最終地・壇ノ浦発１３：１５－八栗ケーブル１３：５６－八十五番札所・八栗寺１４：２２～５０－八十六番札所・志度寺１６：２２～４９－富士屋旅館（泊）１６：５４
宿＝お遍路７５００円、先達・ドライバー６０００円、応対等全体的に良い

高松東自動車道から高松東ＩＣで降りる予定だったが、何故か東ＩＣが無く？高松中央で降り少し戻る。前回最終地の壇ノ浦着。天気は良かった。東に大きな岩壁を抱いた標高３６６ｍの五剣山（八栗寺）が見えた。なかなか立派な岩山だった。

目的の八十五番札所・八栗寺は、山の中腹にあった。壇ノ浦の橋を渡ると道は次第に傾斜を増した。途中に「小田家」という大きく立派なうどん屋があった。店は有名らしい。

しばらく行くと八栗ケーブル駅があった。ＳＡちゃんがバスで行くから、ご朱印帳を頼んだが、茶店のオバサンが、先ほど「カゴを下げた方が上って行った」と証言？と思ったが、後で聞いたら一度、八栗寺入り口まで行ったが、寺が分からずバスで戻って来たという。

ともかく急坂を上って行く。道は山門を通らない裏道みたいな感じだった。やがて境内に入る。頭上に覆いかぶさるように岩壁があった。お勤め時、団体さんが３０名位やって来た。ケーブルで上ったようだ。お勤めが競合するとイヤなので、そそくさと済ませた。大師堂横に大きなお地蔵さまが佇立していた。

寺からまた海抜０ｍの志度寺まで下る。下りが上った道以上、急に感じるのは何故だろう？途中、見事な青葉の畑が広がっていた。畑仕事のオバサンに聞けば、花芽を食べるとのこと。

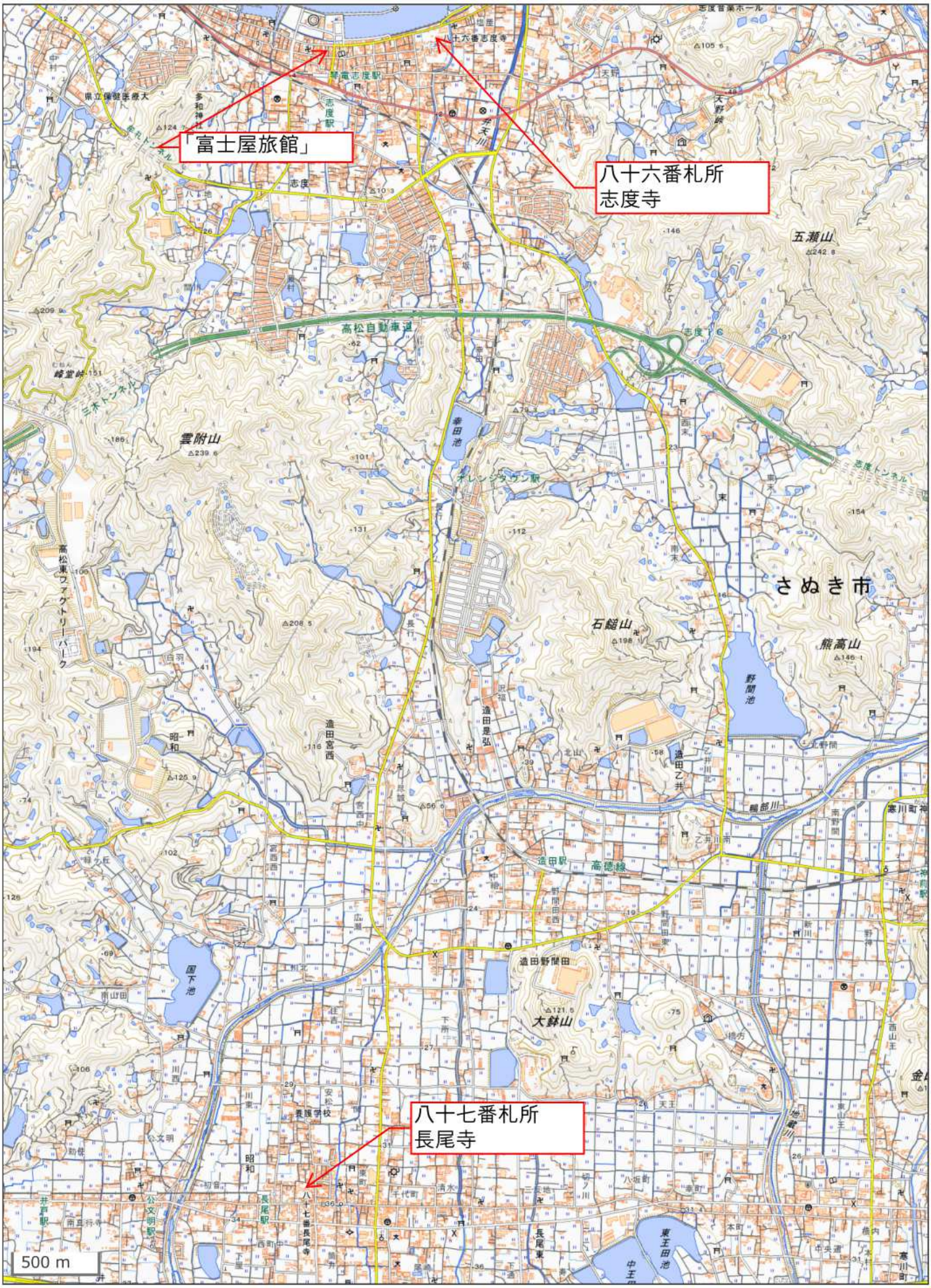
「平賀源内旧宅」「石鎚山奉献灯篭」を見学して行くと、立派な五重塔を誇らしげに持つ志度寺に着いた。境内に生け花の献花があった。境内の生け花は初めて見た。

志度寺は昔、洋上にあり「死渡寺（しとじ）」を呼んでいたという。今日のお遍路は終了。宿は直ぐ近くの「富士屋旅館」。なかなかいい旅館だった。

志度寺は、謡曲「海人」で知られ「海女の玉取り伝説」が伝えられ、境内には海女の墓（写真）が五輪塔群としてあります。また浄瑠璃の「花上野誉の石碑」等の舞台になっています。開祖は古く、推古天皇の時代とされ、かつては「死度寺」または「死渡寺」といい、補陀洛

地理院地図

GSI Maps



渡海の道場であったと考えられています。この世からあの世にいらっしゃる観音様をお参りするお寺であると言われていました・・・ネット

五剣山遠望

八栗ケーブル

八十五番札所・八栗寺

八十六番札所・志度寺

第２日目　１１月０８日（土・晴）　通算歩行日数＝４６日　　距離＝約３２Ｋｍ

八十六番札所・志度寺発５：４５－八十七番札所・長尾寺７：１８～４１－前山「おへんろ交流サロン」９：１９～４０－女体山１２：０６－八十八番札所・大窪寺１２：５１～１３：３３－八十八庵－Ｒ３７７川北付近１６：３０－旅館「八幡」１７：３０（泊）

宿＝お遍路７３４４円、先達・ドライバー６４８０円。先達・ドライバーの部屋の仕切りが襖でＴＶの音が筒抜けだった　缶ビール自販機なし、風呂は大きい

今日はかなり厳しいコースなので、朝食は５：００。遍路開始は６：００と気合を入れる。これに宿の女将も協力的だった。バスで志度寺に向かう。まだ、真っ暗だった。四国は静岡に比べ、大分西なので夕暮れは遅く、日の出も遅い。

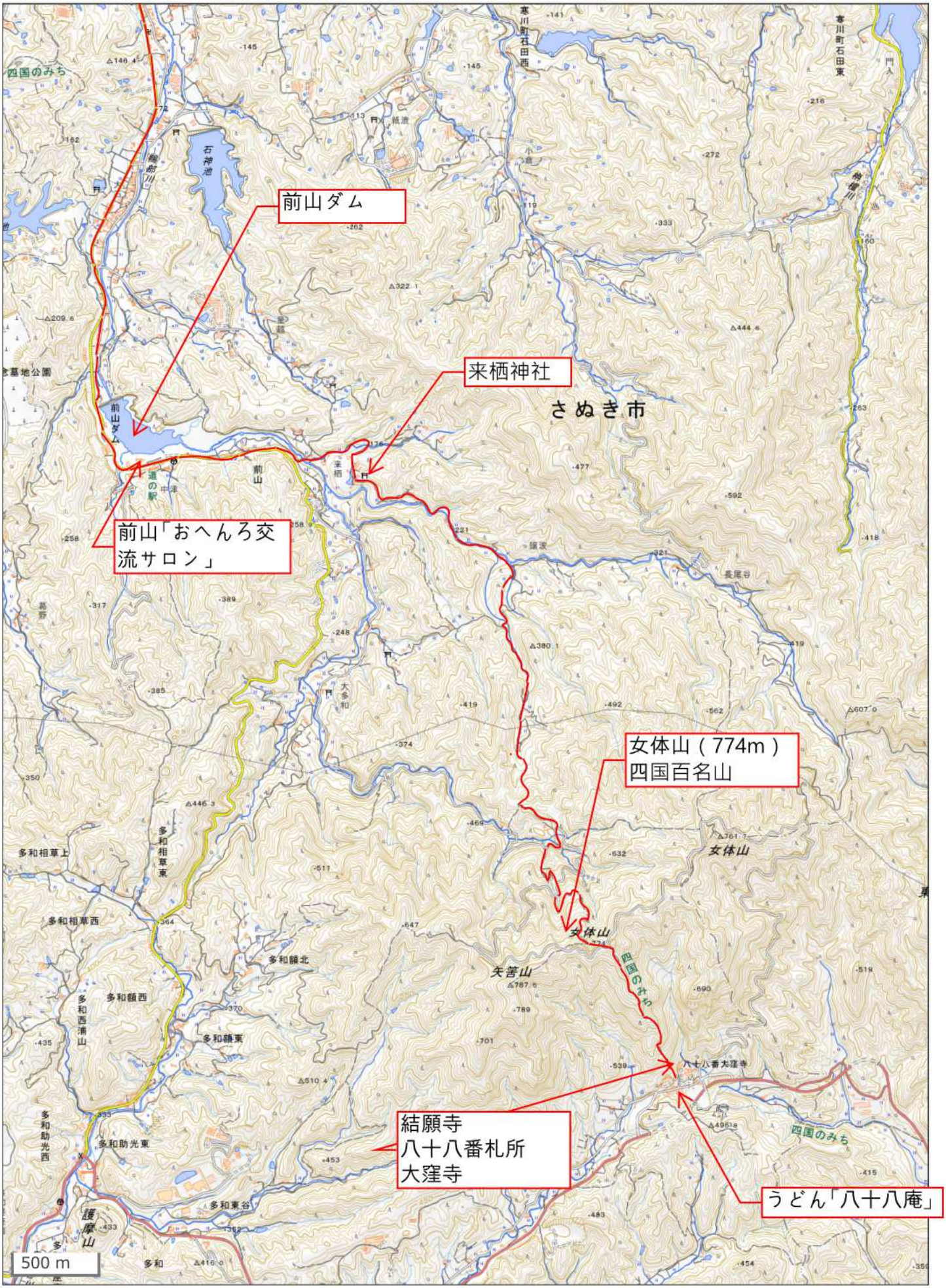
道は南に長尾寺に向かう。例によってＳちゃんがコンビニで用を足す。１時間ほどで八十七番札所・長尾寺着。これで八十八番に王手。寺は早朝で空いていて静か。昨日の様にバス巡礼者が大挙すると厳粛な雰囲気はなくなる。境内に同行二人御詠歌碑があった。「あなうれし　ゆくもかへるも　とどまるも　われはだいしと　ふたりづれなり」（ネットでは、頭が「ありがたや」の表記もある）

寺を辞し再び歩く。塚原から裏道を歩くと、可笑しい彫像が並んでいた。坂が急になると前山ダムの上り。裏道を行くと一部崖が崩れていたが問題はなかった。ダムに出るとルートは三つあって、何処を行くか選択を迫られる。結局、ダム前を通過し一番自然道が多い来栖神社経由コースを選んだ。

前山ダムは大きな人工湖だった。道の駅もあり賑やか。「前山おへんろ交流サロン」があった。お遍路資料室が併設されていた。中に入ると、地元のボランティアのご婦人数名が、ハチミツ飲料のお接待をしてくれた。様々な資料が展示されていた。中でも目を引くのが、昔のお遍路宿の屋根裏から見つかった古いお札で、「２３３年前の天明年間（１７８１年）」のものだった。

地理院地図

GSI Maps



また、歩きお遍路者に「四国八十八ヶ所遍路大使任命書」の賞状・バッジ・ＣＤをくれた。私の賞状は「ＮＯ．８５９」だった。つまり歩きお遍路は、年間千人程度だろうか。勿論、全員が貰う訳ではないだろうが。

先の道は困難を極めた。無理もない、標高約０ｍの志度寺から八十八番札所・大窪寺（女体山）まで標高差は約７７６ｍ、距離約２０Ｋｍの道のりなのだ。正に生みの苦しみが最後に待っていた。特にＳちゃんは、怪我があり十分トレーニングが出来ず苦しい上りだった。女体山ではダウン寸前だった。（女体がこんなに苦しいとは？？！！）

女体山直下は岩場があった。岩場を越えると待望の頂上。頂上に「香川勤労者山岳連盟」の看板があった。下ると八十八番札所・大窪寺境内だった。ただ、山門からでなく裏口のような感じでやや失望。最後はキチッと山門から入りたかった。

大窪寺は、紅葉が相まって、観光客が多くごった返していた。「満願成就・結願」の厳粛な雰囲気は全くなかった。朝一番で静かなら、また感じは違っていただろう。

最後のお勤めをして、ＳＡちゃんが貰ってくれた、結願証をかざし記念撮影。特に感慨はなかった。「終わったぁ」の感じだった。

八十七番札所・長尾寺

おへんろ交流サロン

結願の道

女体山山頂

それよりもお昼時間はとうに過ぎて腹が減って減って参っていた。山門を出て有名な「八十八庵」（やそばあん）に入る。昼時で物凄い人だった。味噌仕立ての煮込みうどんがイイと聞いていたので注文。一つの鍋に二人分入って来た。白味噌だった。

ちょっとしょっぱくて、後で喉が渇いた。

昼食は終わったがノンビリ出来なかった。明日の一番札所までの「お礼参り」の行程が厳しく、今日出来るだけ「稼いで」おく必要があった。しかも、明日は雨予報。全く最後の最後まで楽はさせて貰えない。「お礼参り」は、必ずしも結願者全員が行く訳ではない。事実、今日一緒に歩いた方は、大窪寺からバスで帰ると言っていた。しかし、私もそうだが、全員一番札所まで歩きたいと切望していた。

大窪寺から道は概ね下りが続く。だから楽と思ったがなかなかそうでない。時計は１５時を回り、既に８時間近く歩いている。１６：３０、川北付近で今日のお遍路を終了した。歩数は４９０００歩、距離は３２Ｋｍ近く歩いた。この日は、本当に疲れた。

八十八庵

第３日目　１１月０９日（日・雨）　通算歩行日数＝４７日（最終歩き日）　歩行距離＝約２７Ｋｍ

起床７：００ーバス７：４５ー前日終了地発８：０４ー第一回時お接待場所
９:４４ーだいせん食堂（昼食）１１：５０～１２：５１ーー番札所・霊山寺
１５：００～４０ー徳島グランド・ホテル１６：４５（泊）
宿＝お遍路・先達・ドライバー＝８６４０円

朝から雨だった。昨日の終了点、川北付近にバスで戻り出発。雨は激しい降りではなかった。ダラダラ下って行くと徳島自動車道を潜る。道は左に折れ、十番札所・切幡寺方面に向かう。辺りは、既に２０１０年１１月６日、第一回四国お遍路の時、通過している。だから正確には、切幡寺入り口の交差点で一周したことになる。しかし、やっぱり一番札所まで行く必要はある。

十番札所・切幡寺と九番札所・法輪寺中間の土成町（どなるまち）秋月交差点に来た時、私しは思わず「あっ」と声を上げた。そこは、前述の第一回お遍路時、お接待を受けた休憩場だった。４年経った今も全く変わっていなかった。

・・・ここから少し街中を通過する。角を曲がると聞いていた「お接待」があった。ちょっとした店みたいな所にお茶・お菓子・飴があって、座布団を敷いたベンチが置いてある。張り紙には「お遍路さん、ひとやすみなさいませ。お茶のお接待をどうぞ。無料。元気で御巡拝を！！」とあった。（原文のまま）皆で有難く頂きました・・・（第一回報告書から）

皆でしばし思い出話に盛り上がった。九番札所・法輪寺は四国では珍しく田んぼの中にある。なるべく道を短縮するため寺に寄らないで、Ｒ１２を真っ直ぐに進んだ。

雨はなかなか止まない。腹が減って「だいせん食堂」で昼食にした。なかなかイイ食堂で、デザートに柿をお接待してくれた。飲んだ日本酒は「金陵」だった。一番札

雨のお遍路

だいせん食堂

キスリングお遍路

車お接待

一番札所
霊山寺

所・霊山寺が近づくと、お遍路さんが多くなる。皆さん雨の中「希望・勇気・精進・修行」を持って元気に歩いて行く。

中に黄色いポンチョの若い衆がいた。聞けば今年入ったばかりの会社を辞めて来たという。「やっぱり、訳ありか？？！！」（笑い）そして背負っているザックが、帆布製の大昔のキスリングだった。お父さんが以前使っていたモノを借りてきたという。

へ〜、せっかく就職した会社を辞めてのお遍路をお父さんが公認なのか！！ヨカッタヨカッタ、仕事はまた探せばイイ。ともかく事故がないよう頑張ってとエールを送った。

先のトンネルに昼間からテントを張り、雨宿りのサイクラーがいた。やがて見覚えのある山門が目に入った。一番札所・霊山寺だった。今日も長かった。ようやく着いたのである。今日も特段の感動はなかった。

本堂だと思ってお勤めをしたら大師堂だった。結局、最後の最後のお勤めは本堂。

中でお勤めが出来る。一番札所に相応しい荘厳な雰囲気だった。むしろ間違ったのが良かったと納得。四国お遍路で、本当の最後のお勤めは無事終わった。兎に角「終わった、終わった、終わった」のである。

バスで今日の宿、「徳島グランドホテル・偕楽園」に向かう。バスの車窓に向かい少し感傷的になる。玄関には入ると賑やかな「阿波踊りの三味線」お接待を受ける。「アア、そうかここは徳島なのだ」。結局、阿波踊りは、近くの催事場で一年中やっていた。元気がイイ女性軍は、有料にも関わらず、夕食後出掛けて楽しんで来た。実際に踊れて「行って良かった」と口を揃えていた。

玄関の三味線の女将は、夕食会場にも来てくれて専門の踊り子と一緒に演奏してくれた。お調子者の私は先頭になって踊り楽しかった。宿はまあまあだったが、私が寝た部屋の隣が地元の保育園で調子が悪いクーラーが一晩中五月蠅かった。

第４日目　１１月１０日（月・晴）　歩行距離＝なし

起床６：３０ー徳島港フェリー８：００ー和歌山港１０：００ー高野山１２：５８ー「遍照尊院」（泊）１７：００

宿＝お遍路１２９６０円、先達・ドライバー７０００円。布団が短くて足が出て寒くて仕方がなかった。また、一人部屋は遥かに遠く最悪の部屋だった。料金も安くない

南海フェリー

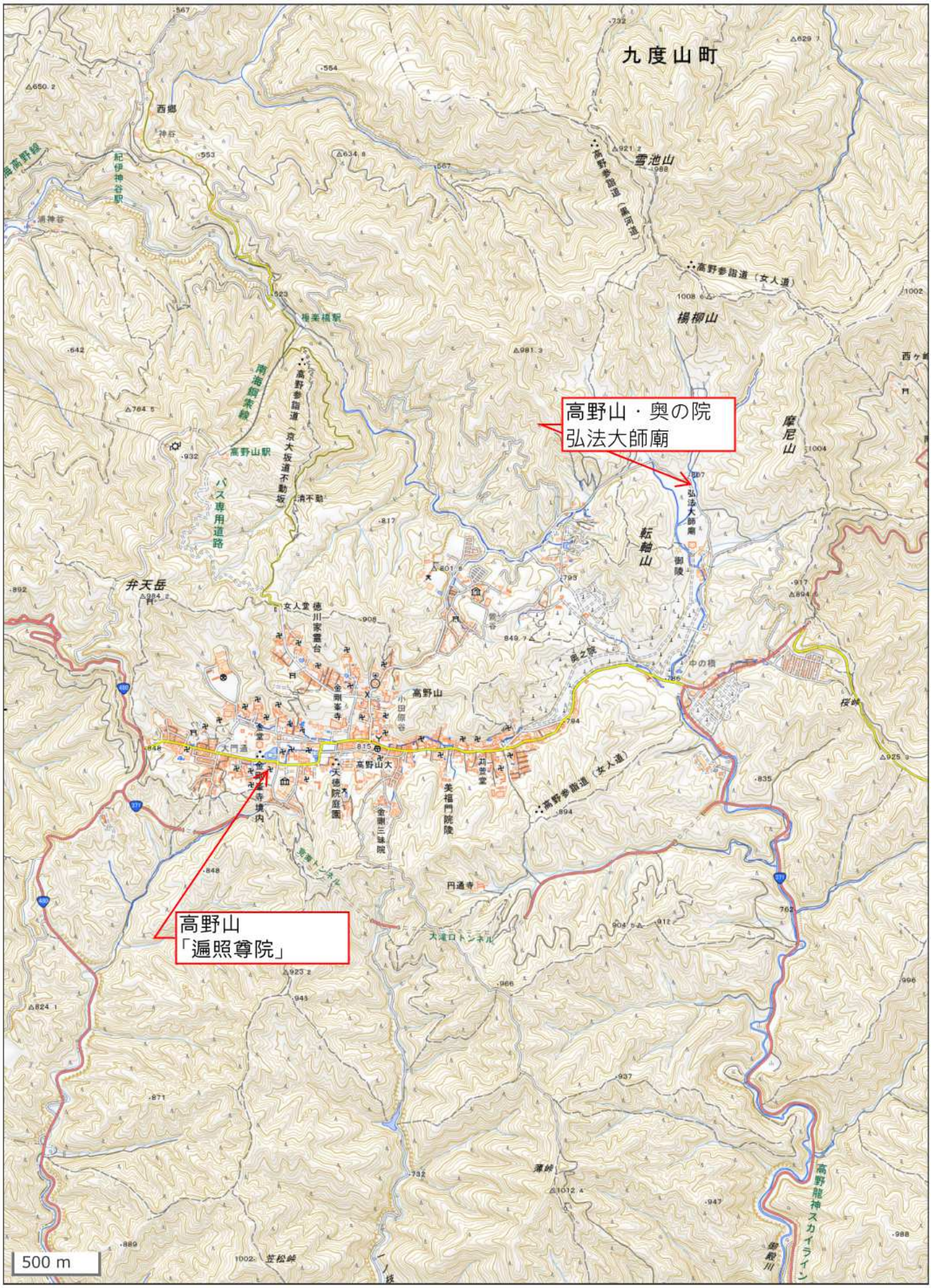
昼食

船で知り合ったお遍路さん

お接待
三味線

地理院地図

GSI Maps



高野山

今日歩きはなかった。高野山に行って大師に感謝・報告し、ご朱印帳に最後の記帳をしても貰うだけ。８：００のフェリーで四国を後にする。フェリーは２時間で和歌山到着。空いていて快適な船旅だった。

バスで一気に高野山に上がる。高野山は何度も来ているが、秋は初めてだった。紅葉が素晴らしいのに驚いた。特に赤が素晴らしかった。今日の宿を探した。宿は「遍照光院」と思っていた。宿に行き掃除をしていた方に聞いたら、「今日、静岡さんは、入ってない」という。エエ～、変だな～、何かの間違いか？？と思ったら、「本当に遍照光院？？」という。「よく、遍照尊院と間違える」とおっしゃる。正にその通りだった。私が「遍照光院」と思って予約したのは、実は「遍照尊院」だったのだ.

ガ～ン、私としたことが、こんなミスをするとは、最後の最後で大ポカだった。ま、仕方がない、気を取り直して「遍照尊院」に向かった。寺はちょっと裏通りのパッとしない場所だったが、何故かお客は多かった。境内に「皇太子（現天皇）が学習院時代に泊まった」立札があった。

ただ、受付の坊主が、煙草スパスパでイヤな感じだった。悪い予感は当たり、何とその夜の蒲団が短くて足がスースーで参った。翌朝、クレームを言ったら、「すぐ考えます」だった。違うだろう、「すぐ交換します」でしょう。私的には「高い宿泊費を返せ」の心境だった。この宿泊費は周りに比べ２０００円程高い。

ともかく、近くの食堂で腹ごしらえをする。全員「カツ丼」を食べる。美味しかった。食後は奥の院に向かう。まずは、入り口の納経所でご朱印をいただく。最後の納経は正に重いものがあった。奥の院でお勤め。すぐ若い坊さんが飛んで来て「鳴り物」は止めて下さいといわれる。それと「笠も取る様」いわれる。両方とも駄目は初めてだった。

その後、おのおの自由行動。私はブラブラ歩き、当日無料の「高野山霊宝館」に入

った。（通常＝６００円）初入館だったが、物凄い資料館でとても１～２時間では咀嚼出来ない内容だった。

高野山は標高が高く寒かった。「湯冷め」で、すぐ風邪を引くわたしは結局、風呂に入らなかった。皆さんは入って良かったと報告。夕食はマズマズだった。周辺の宿坊に比べ何故かここはちょっと高いが、理由は分からない。まさか、夕食がイイ訳でもないだろうが・・・。

四国お遍路の最終日は静かに更けて行った。また、いつか来ることもあるだろうか。それは分からない・・・。いろいろ有ったが、いい経験・体験だった。私も少しは大きな人間になれただろうか。一人では絶対できない。皆に、感謝・多謝・深謝。合掌。

第５日目　１１月１１日（火・晴）　歩行なし

起床５：３０－お勤め６：００～７：００－バス発８：００－長泉町着１８：００ころ

紅葉が素晴らしい

遍照尊院

2014/11/9

八十八番札所・大窪寺

切り抜き帳

壇ノ浦・・・日本の浦の呼称で、治承・寿永の乱（源平合戦）の舞台となった場所。以下の2箇所が知られる。１．中国地方最西部、本州最西部に面する関門海峡の一角である早鞆瀬戸（はやとものせと）の北側の浦（海辺）。壇ノ浦の戦いの戦場。現在行政上は山口県下関市壇之浦町周辺地域にあたり、山口県南西端、下関市街地の東部に相当する。２．四国地方北東部、屋島の戦いで戦場となった屋島の東麓の低所。現在行政上の所在地は香川県高松市屋島東町の一角である。瀬戸内海国立公園指定区域でもある。

前山おへんろ交流サロン・・・四国八十八ヶ所の第87番札所・長尾寺ながおじから結願の第88番札所・大窪寺おおくぼじに向かう途中に前山地区がある。遍路道沿いである前山には、昔からの遍路に関する歴史的資料が数多く残っていたので、これら資料を一堂に集めて展示・紹介を兼ねた施設として「おへんろ交流サロン」が平成11年に建てられた。

ここには江戸時代の遍路資料など貴重な文化財が展示されている展示室や、ここを訪れた人が休息したり、地域住民と交流しながら見識を広め情報を収集できる場となっている。

女体山・・・香川県さぬき市と東かがわ市にまたがる、標高774mの讃岐山脈にそびえる山。山容から、長尾町から見ると女性が上向きで横たわっている姿に見え、山頂が女性の特徴部分にあたることから女体山と呼ばれるとの説もある。

お礼参り・・・四国お遍路の基本部分は八十八ヶ所の札所をお参りすることですが、付加的な要素として「お礼参り」がある。ただ厳密な定義がある訳ではない。八十八箇所を巡り終えた後、無事結願の報告と感謝を込めて、最初にお参りしたお寺などに再度お参りする習わしがある。徳島県の一番霊山寺から遍路を始める人が多いので、八十八番で結願の後、お礼参りは一番に向かうことになる。ただ、自宅から便利な場所から打ち始めて構わないので、例えば五十一番から打ち始めた人は五十番で結願となり、お礼参りは五十一番となる。

キスリング・・・昭和4年（1929年）、2代目・片桐盛之助のもとに、槙有恒氏と松方三郎氏が、スイスのヨハネス・ヒューク・キスリング氏の考案・製作したザックを持ち帰り、それをもとに、盛之助は日本で初めて、キスリング型リュックサックを製造した。戦後の登山ブームから昭和の終わり頃まで、広く愛用された。主荷室の両サイドに大きなポケットを備えた横長のザックで素材は綿帆布とベルト類が皮革で出来ていた。フレームやクッション等が一切なく、パッキングのみで形を整えるために、うまくパッキングするには慣れが必要だった。

注・・・「遍路寺」、「メモ」、「切り抜き帳」は、ネットから転載しました。

お遍路の記録一冊に

長泉の後藤さん　道中の様子、地域交流

長泉町の後藤隆徳さん(74)がこのほど、仲間とともに行った四国八十八カ所霊場巡りを記録した書籍「四国八十八箇所お遍路」を自費出版した。

後藤さんは2010年から14年にかけ、9人の登山仲間と巡礼を達成した。道中の様子や地域の人との交流を当時の思いと合わせてつづった。寺院のたたずまいや季節の花々を収めた写真も載せた。

後藤さんは定年退職を機に趣味の山登りを充実させようと、伊豆地域の寺を回る八十八カ所巡りを始めた。四国では数回にわけて、計47日間をかけて約1200キロを完歩した。

「つらくてゴールがなかなか見えないお遍路は、コロナ禍の時代と重なる。読んだ人が希望を持ってコロナに打ち勝つ気持ちを持ってほしい」と話した。

「四国八十八箇所お遍路」はA4判、228ページ。送料込みで5千円で販売している。問い合わせは後藤さん＜電090(8956)9990＞へ。

（東部総局・石岡美来）

四国八十八カ所巡りを記録した本を出版した後藤さん＝長泉町

2021/03/05
静岡新聞朝刊

あとがき

なかなか、ようやく、遅ればせながら、で、やっと発刊のはこび。やろう、やろう、と思っていたが、なかなか出来なかった。

この手の本は、既に ２００６年に「伊豆の里山・５０山」（実際は、６１山）・Ａ４版・１７２ｐ、２０１３年に「伊豆八十八札所巡礼」Ａ４版・２３２ｐを出版している。本は今回で３冊目。

お遍路が終わったのが、２０１４年だから、いささか遅すぎた感は否めない。この手の仕事は、思い立ったら、一気呵成に進めることが肝要。

遅くなれば、記憶は薄れ、感動もなくなる。今回、その気になったのは、コロナ禍で在宅が増え、時間が十分あったこと。それと、この時代この本で、皆様に何かの「勇気・元気・展望」が伝われば と思いました。「信念・意志・意識」を持って望み進めば、必ず道は開け、願いは成就するということです。

ここまで延びたのは、年齢を重ね、目も悪くなり、気力も低下した。それでも、全ての記録・写真を完璧に残してあったので編纂は、まあまあ楽だった。６年前のお遍路だったが、鮮明に一場面、一場面、思い出された。

出来れば、可能なら、「もう一度歩きたい」気持ちはなくはない。しかし、憧憬は憧憬で残すのもいいだろう。

最後に多くの仲間・バス会社・家族・地元の宿・寺・お接待の多くの方々に感謝する次第です。合掌。

後藤隆徳（ごとう　たかのり）
1947/02/22　三島市生まれ

18 歳から本格的登山。
冬、日本 ALPS の主な峰を登頂。
また、山岳スキーも精通。日本オート・ルート、日本海オート・ルート、5 月剣岳長次郎谷～頂上、剣岳一周など。海外は、モンブラン、ヒマラヤ・ヤラピ―ク、ヨーロッパ・オートルートなど。
巡礼は、伊豆・四国・御厨・秩父・小豆島。ほか、富士山一周ウオーキング、伊豆一周ウオーキング主宰。
裾野麗峰山の会会長。

「四国八十八箇所お遍路」

発行者　後藤隆徳
発行日　2021/04/01
印刷所　「プリントアース」

連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12
090-8956-9990
055-986-6075

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/
裾野麗峰山の会